

平成 26 年 7 月 12 日開催 第 112 回起業の鉄則研究会 議事録

起業の鉄則研究会(リーダー: 小林宏至副会長)

平成 26 年 7 月 12 日(土) 14 時から甲南アセット大開ビル別館 5 階会議室にて講師とも 23 名が参加。本年度第 4 回目(通算 112 回目)の起業の鉄則研究会が開催されました。

1 部は、米国の不動産をはじめ、海外の生命保険商品にも強みを持って、中小企業者の財産を守ることをモットーに活躍されている FP(ファイナンシャル・プランナー)による、中小企業経営者の会社の成長とライフステージに応じた資産運用についての講義。2 部は大阪国税局元国税調査官による税務署勤務経験にもとづいた中小企業経営者へのエールと税務調査の具体例および心を癒す取り組みについての講義でした。

どちらの講義もここでしか聞けない、経営にヒントになる知恵・知識が豊富で、質疑応答も活発な内容でした。参加者は、不動産経営者、就職をひかえた大学生、社会保険労務士、経営コンサルタント、生命保険会社社員、大手製造メーカー社員、出版社経営者など多彩な方々が参加された。

◆【第 1 部】

「負けにくい投資 7 つの原則・お金値の殖やし方・残し方」

講師：ニッケイ・グローバル株式会社 代表取締役 大田 勉 氏

- ・中小企業経営者の方々の財産を守る、守ってから財産を増やすことをモットーに毎日取り組んでいる。金利はその国の成長スピードでもあり、経営者にとっては負担になるもの。
- ・日本では第二次大戦後の税制改正で、所有者が変わるたびに、高率の税金がかかる仕組みになっている。企業→個人→子孫に渡るまでに半分以下になる。従って、節税か、現金よりも評価が低くなる資産を持つかして、自分の資産を守るための防衛策をとるようにプランを提案し、勧めている。
- ・社長業はハイリスク・ハイリターンな請負業。社長になると、自分の家族、社員の将来、社員の家族の将来まで、肩にかかってくる。私は、社長にとってお金とは、自らを守る鎧であり、社会貢献のツールであると考えて、中小企業の経営者を守っていきたい。
- ・不動産の評価は日米で異なる。日本は土地建物では土地が高額だが、米国では建物が高額。米国の不動産等も活用しつつ、グローバルな資産防衛策を提案している。米国では創業 30 年以上で 5%以上の利回りをずっと稼いでいるファンドが複数あるが、日本にはない。
- ・これから、増える税は、相続税、所得税。これから減る税は、法人税や贈与税。しっかり、状況を見据えて、対策をとっていきましょう。

「税務署は見ている～元国税調査官の視点で会社を良くする～」

一般社団法人日本マインドヘルス協会 代表理事 飯田真弓

- ・「人事部は見ている」を書いた著者と出会ったのが切っ掛けで、拙著のタイトルを「税務署は見ている」にしようとした。 「心の会」で当塾の小林塾長や、日経新聞出版の方々と出会えた。
- ・大阪国税局元国税調査官の頃は、経営者の不正と戦っているという意識であったが、退職してみると感じるのは、経営者、特に中小企業の方々が一生懸命働いて、税金を支払っていたからこそ、日本が発展を続け、私たちや子供たちが暮らしているという想いに変わった。だから、現在は、そういった皆さんが精神的なプレッシャーを少しでも和らげられるようなお手伝いをしたくて、日本マインドヘルス協会を設立した。

- ・税務署員も人である。経営者や顧問税理士の方が、「好きにしろ」「忘れた」「自分は知らない、担当者がやった」という投げやりな言葉などで、接せられると、徹底的に調べようという闘争心がわいてくる。一方で、一生懸命やっていることが伝わってきて、通常の人として気づかいなどが感じられると、仕事への姿勢がわかるものである。
- ・査察や税務調査が入るきっかけは、意外にも内部告発が多い。会社や社長は儲けていい暮らしをしているのに、俺たちは…というケースが、腹立ちまぎれに税務署に電話をかけてくることが多い。元愛人、元従業員など。人間関係が悪い企業は要注意。会社の存続にかかわる。
- ・税務調査では人柄を見ている。企業にとってキャッシュフローが最も大事であるのに、顧問税理士の多くが、キャッシュフローベースでの経営アドバイスをしていないことが気になる。
- ・エコラージュ(指定されたテーマに沿って、えんぴつで絵を描くことで、心理状態を判断し、カウンセリングを受けつつ、心を落ち着かせ、元気力アップするための手法)体験。

小林塾長からの講評。大田先生に話派経営者として、身にしみる内容であった。飯田先生の話は、ユニークで、愉快的な内容であった。税金をはじくのではなく、将来のキャッシュフローを見越してアドバイスしてくれるのがいい税理士であると感じている。現在たずさわっている不動産事業では、キャッシュフローと償却資産が多いほどいい物件になる。経営方法では、管理会計を実践している。特に現金が残るように工夫している。

終了後、近くの料理屋「雄司」で食事会と歓談を実施した。今回の懇親会では、エコラージュからわかる心理状態について、各自が描いた絵を持ち寄りながら、笑顔の多い会話となった。参加される経営者の皆様の失敗談や苦勞談が、創業まもない経営者の方々の貴重な情報共有になっている。次回は8月9日大阪会場にて開催予定。